



清瀬のよさをアピールしたい

清瀬の方言集を作製 齊藤 靖夫さん

齊藤さんは子どものころから読書が大好きで、主に小説を乱読していたそうです。調べ物や文章を書き留めることが苦にならない性格で、昭和初期から日記(※)を付けていたというお父様の血を引いたのか、齊藤さん自身も昭和25年から60年余り、毎日日記を付ける習慣を大切にしているそうです。

※(その日記から戦時時代の記録をまとめた冊子『私(くさぎ)る―米蔵記―』は郷土博物館で販売・200円)

清瀬の方言集の完成

清瀬周辺の方言約700語を冊子にまとめたそうです。子どものころは身近に話されていた方言を、だんだん聞くことがなくなってきました。日常的に方言を話した方々はすでに80歳を超えていて、方言について書かれたものはほとんどなく、『誰かが残さないと、忘れ去られてしまう』と危機感を抱いたんです。

方言を集めることは学歴やお金の問題ではなく、私も80歳代のものにしかできないことだと思います。書き留めて残しておくことに意義があるかどうかは別として、取りあえず残しておこうと思ったんです。そこで平成に入ってから、以前作製した、清瀬の方言集の修正と補足を行いました。

完成までに約20年の歳月をかけたと同っています。方言と現在使われなくなった共通語との判別が難しく、また、体調不良が重なったため、まとめる段階では苦労しましたが、知り合いに相談するなど可能な限り検討を重ねました。

方言を集める作業については、



「清瀬とその周辺の方言」方言とその意味が50音順にまとめられています

普段からメモを持ち歩き、以前から地元に住む人との会話で出てきたものや、自分で思い出したりしたものも90以上集めました。冊子には約700語が収録されています。

方言うちわは大好評

方言集を市に贈呈していただいたことをきっかけに、市が方言を紹介するうちわを約100枚作製・配布しましたが、すぐになくなるほど好評でした。予想外に好評をいただけ、皆さまに感謝しています。うちわをきっかけに方言に興味を持った方もいらして、「方言集を見せてほしい」と言われることもあります。うちわを作製してくれた市史編さん室も、「方言があったことを知り、地元への愛着が深まれば」と期待しているようです。

ちーりきまんぜい、だ(じゃんけん、ぼん)

単語からは想像が付かないような方言をいくつか教えてください。

冊子にまとめた方言のほとんどは意味を想像するのが難しいと思います。例えば「かしがる」↓「荷物がかしがっているよ」「荷物(文句をつける)など、文脈から想像することができそうなものもあります。ちなみにうちわでは、「とかげ」(かまきり)や「かくねつ

こ」(かくれんぼ)が紹介されています。

方言は故郷の手形

清瀬にも方言があったということを知らなかつた人も多いのではないのでしょうか。

そうですね。60歳代くらいの世代でしたら「聞いたらだいたい意味は分かる」という方もいるかもしれないですが、わざわざ方言で会話はしないでしょうし、若い世代の方には意味も伝わらないでしょう。

方言は地方に根付いた言葉です。対人関係から自然現象まであらゆるものにその地方の長い生活のなかから生じた独特の表現があり、「方言は地方の文化」「故郷の手形」とも言われています。

方言は消滅する運命にあり、代わってカタカナ表記による外来語の時代がすぐそこに来ています。その一方で、方言を発掘し出版物にする活動が各地でも盛んになっているようです。



清瀬の方言うちわ(全4種類)。片面に方言、もう片面に標準語の意味を表記しており、データは市ホームページからダウンロードできます

元気の源 好奇心!?

老人クラブでも活動されるなど多様な分野に参加され、とてもいきいきとされていますね。

地域の老人クラブに入会して8年程ですが、先輩の皆さんがいきいきとしていろいろなことをしていただいたので触発されてその活動に参加しています。実は、「好奇心旺盛」という私の性格が元気の秘訣です。例えば、興味のある場所があると赴いて自分の目で見てみたい。そしてその歴史を学んだりするのもひとつの楽しみです。

清瀬にお住まいになって

ご縁があつて清瀬にお住まいの方に、清瀬の良いところを発見していただき「清瀬に住んでいて良かった」と言っていたらどううれしいですね。

清瀬には、新道や古道、由緒ある神社・寺院、公園、山林、川、そして古い地名の橋、昔ながらの坂や完備された療養施設など歴史に連なるものが多々あります。けやき通りの並木の傍らに建てられた24基の著名人の彫刻作品などを

見て歩くのも趣がありますし、「清瀬の名木・巨木百選」を訪ねてみるのもお勧めです。初めて見る木があると思います。

やりたいことがたくさん

今後やってみたいことなどがありましたら教えてください。

これまで大勢の方にお世話になりましたので、「何かお役に立ちたい」と言う気持ちを持っています。方言集の作製が終わったので、できれば、戦後の食糧をはじめ、あらゆる物資の困窮時代を体験した一人として、清瀬の昭和初期から戦時中の家族の暮らしの状況を、農家の生産物やその出荷などを通じて書き記したいと思っています。

また、昭和29年、清瀬が村から町に変わった時、年中行事も変わりましたので、一度調べたいです。その他にも、清瀬の戦前・戦後のことを詳しく書いたものがないので、その時代を知っている方にお聞きして記録に残したいと思っています。

後は、清瀬の古道に関心があります。昔、この道はあの場所にながっていたとか、戦前の道路やさびれて人通りの少なくなった道なども調べてみたいです。思わぬ発見があると思いますので、楽しみにしています。

清瀬の良いところも多方面からアピールしたいですね。もちろんそれには皆さんのご協力がなければなりません。これからも皆さんのお役に立ちたいと存じますので、変わらぬご支援をお願いいたします。

—ありがとうございます。

「方言には、狭い集落でのみ通じるものから広範囲にわたるものまであります」と、方言について語る齊藤さん。広い地域で使われている方言として関東の「べえべえ言葉」が有名ですが、千葉・茨城では語尾が跳ね上がるのに対し、清瀬を含む旧北多摩・西多摩・南多摩の三多摩、神奈川県の中中部、埼玉の入間郡、北足立郡あたりでは語尾が下がりイントネーションが異なっているそうです。

今号は、清瀬の方言が消滅しないようにと、約20年かけて「清瀬の方言集」を作成した齊藤靖夫さんに、お話を伺いました。

齊藤さんは83歳。気さくで元気なオーラが溢れています。長年農協に勤務し、退職後は、郷土博物館協議会委員や固定資産評価審査委員会委員などを務め、現在は主に選挙管理委員会委員長、清瀬市文化財保護審議会委員、社会福祉協議会副会長などに就任し、さまざまな分野で活躍されています。

また、平成25年3月には、選挙事務の適正な管理執行や明るい選挙の推進に尽力した功績をたたえ



衆議院議員総選挙総務大臣表彰を受け、市長を表彰訪問しました